

『曹洞宗大本山總持寺の仏堂と精進料理』

令和5年3月30日(木)、桜も見ごろ頃、天気にも恵まれ男子18名、女子25名、合計43名もの沢山の皆様に参加いただき、第71回イベント「曹洞宗大本山總持寺と精進料理」を開催することができ感謝いたします。三松関を通り三門をくぐり抜けて、「しゃもじ」と「すりこぎ」が出迎える、香積台總受付に着きました。11時に香積台の待合室に集合し、会長挨拶の後、行程説明を受け、ボランティアによる總持寺に見学ツアーに入りました。太祖瑩山紹瑾禅師700回大遠忌の工事中につき、大祖堂の改修工事のため見ることは出来なかったので、



百間廊下の途中、中雀門で仏殿の説明がありました。歌人の与謝野晶子は鏡のような石畳の美しさを「胸なりてわれ踏みがたし氷より すめる大雄宝殿の床」と歌いました。

仏殿にはお釈迦さまが祭られているそうです、百間廊下はピカピカに磨かれていたのは一日二回、修行僧による雑巾がけが行われています。衆寮をのぞき、大僧堂では修行が行われる修行道場で、修行僧は少子化が進み70名位の方が毎日規則正しく修行を行っているそうです。





ボランティアと分かれて三松閣に移り、いよいよお待ちかねの「精進料理」に入りました、僧侶による説明の後、「五観の偈」拍子木を打ち、全員で復唱し九種類の料理を頂きました、「曹洞宗」の開祖で、日本の精進料理の礎を築いた道元禅師は食事の心構えと「典座教訓」と纏めていました、食材は精進物とは肉、魚介類を用いない植物性のことで、野菜類、穀物類、海藻類、豆類、木の実、果実、等を指します、「五葷（ごくん）」ニラ、ニンニク、ネギ等は使わない。

目の前の食べ物と向き合い、食べることに集中することも、修行の一つだからです、食べた後「食後の願い」を復唱しました。



香積台の前に集合し、全員写真を撮って楽しみました！



ここで解散しこの後オプションツアーをに入り、昭和の大スター「石原裕次郎の墓」、鶴見線に乗り関東の駅百選に選ばれた「海芝浦駅」に出発しました。



参加者全員事故もなく無事に過ごせた行程に感謝します。

文章	熊田 昌秀
写真	富山 友次
編集	富山 友次